

平成18年度事業報告

(平成18年4月1日－平成19年3月31日)

I. 会員数 (平成19年3月31日現在)

(1) 名誉会員	1名
(2) 正会員	
平成18年3月31日現在会員数	1,418名
平成18年度新入会	130名
退会	170名
内訳 希望退会	169名
物故者	1名
正会員現在数	1,378名 (40名減)
	(学生会員 A, B 122名を含む)
(3) 維持会員	
平成18年3月31日現在維持会員数	116社
平成18年度退会	13社
平成18年度入会	7社
維持会員現在数	110社 (6社減)

II. 機関誌送本および販売数 (各号につき)

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	1冊
	正会員	1,096冊
	維持会員	291冊
国外	正会員	14冊
	小計	1,402冊
(2) 販売数		80冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	10	10冊
国外	60	60冊
	小計	70冊
	合計機関誌送本数	1,552冊
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

Ⅲ. 第53回通常総会

会 期： 平成18年5月12日

会 場： 神戸国際会議場

Ⅳ. 理事会、評議員会

(1) 理事会 3回開催

①定例 開催年月日：平成18年5月10日

開催場所：神戸国際会議場

②定例 開催年月日：平成18年5月13日

開催場所：神戸国際会議場

③定例 開催年月日：平成18年11月27日

開催場所：東京ガーデンパレス

(2) 評議員会 1回開催

開催年月日：平成18年5月10日

開催場所：神戸国際会議場

Ⅴ. 定期学術集会の開催

第53回日本実験動物学会総会を下記のように開催した。

会 期：平成18年5月11日（木）～13日（土）

会 場：神戸国際会議場

会 長：倉林 譲（岡山大学自然生命科学支援センター）

参加者：1,180 名

Ⅵ. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成18年 4月 1日	55	2	一部収益事業
平成18年 4月 1日	55	3 (サプリメント号)	〃
平成18年 7月 1日	55	4	〃
平成18年10月 1日	55	5	〃
平成19年 1月 1日	56	1	〃

Ⅶ. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第18回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (1名)

山内 一也 会員

2) 安東・田嶋賞 (1名)

米川 博通 会員:「実験用マウス系統の遺伝的起源に関する研究と実験動物学への応用」

3) 奨励賞 (2名)

権 仲基 会員:「ubiquitin C-terminal hydrolase(UCH)ファミリーのマウス精巣における役割と機能の検索」

高橋 英機 会員:「遺伝子組換え動物を用いた電位依存性カルシウムチャネルの解析」

4) 2005年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1題)

稲垣秀晃会員、桑原正貴会員、局 博一会員:「報酬の古典的条件付けによってラットの心臓に対する自律神経調節に生じる変化」

5) 2005年度日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

受賞者は下記のごとくである。

中国 : Xie Xiayang
韓国 : Hee Kyung Jin
フィリピン: Christina B.Portilla
台湾 : Chih-Hsin Tang
タイ : Theera Somchitprasert

(2) 第19回学会賞受賞者を選出した。

1) 功労賞 (3名)

佐藤 徳光 会員

辻 紘一郎 会員

武藤 健 会員

2) 安東・田嶋賞 (1名)

伊藤 豊志雄 会員:「実験動物の微生物学的品質管理に果たした役割」

3) 2006年 Experimental Animals 最優秀論文賞

藤本和則会員、小石龍太会員、清水川哲也会員、安藤洋介会員:「Angpt13欠損マウスはリポ蛋白リパーゼ活性亢進による血中脂質濃度の低下を示す」

(3) 2005年国際賞の選考を行った。

受賞者は下記のごとくである

中国 : Yin Ming
韓国 : Byeong-Cheol Kang
台湾 : Yi-fan Chen
タイ : Thidarut Boonmars

(4) 若手研究者海外派遣の選考を行った（米田記念事業）

下記の3名を選考した。

徳田 智子 会員

仁科 拓 会員

林元 展人 会員

VIII. 研究・調査活動

学術集会委員会、財務特別委員会、将来計画検討委員会、国際交流委員会、広報・渉外委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、マウス・ラット感染対策委員会の各委員会ならびに教育・研修ワーキンググループ、系統ワーキンググループ、情報公開検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 社団法人日本実験動物協会、日本実験動物技術者協会、日本実験動物環境研究会およびその他の国内外関連学会・協会の活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）の事業に協力した。
- (4) アジア実験動物学会連合（AFLAS）の事業に協力した。
- (5) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (6) 国立大学法人動物実験施設協議会、公私立実験動物施設協議会等の活動に協力した。
- (7) 財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターの活動に協力した。

X. その他

第53回総会期間中に3つのワークショップを開催した。

- 1 「遺伝子マッピングとその応用」
- 2 「胚と精子の凍結保存」
- 3 「微生物モニタリング」